一緒に失敗しよう

ビジネスケーススタディ
紙芝居

社員研修マンガ教材

デザイン会社

A子さん

B部長

Cさん

　こちらは、とある、デザイン会社に勤務する新入社員のＡ子さんです。
　Ａ子さんは、明るく元気で、まじめな性格でしたが、少し、おっちょこちょいな面がありました。
『やったー、あこがれの会社に入社できたから、もう今日から目一杯、がんばろっと』

　フレッシュな新人の明るさに、まわりの先輩方は、Ａ子さんに好感を持っていました。
　しかし、Ａ子さんの元気はカラ回りしてしまっていました。

　こちらは、上司のＢ部長です。
『Ａ子さん、また納品データが間違っているって、お客さんから連絡きちゃったよ』

『え、あ、はい、すみません。今すぐ、訂正して、送りなおします』

　こちらは、先輩のＣさんです。

『Ａ子さん、今、お客さんから電話があって、デザインの納期過ぎてるってお客さんからクレーム来ちゃったよ』

『ええー！！あ、すいません、納期、間違って把握してました。すぐにお詫びの電話をいれます。すいません』

　このように、A子さんは、その持ち前の明るさと元気で、まわりの先輩から可愛がられていたものの、失敗やミスが多い点は、まわりのみんなが心配していました。

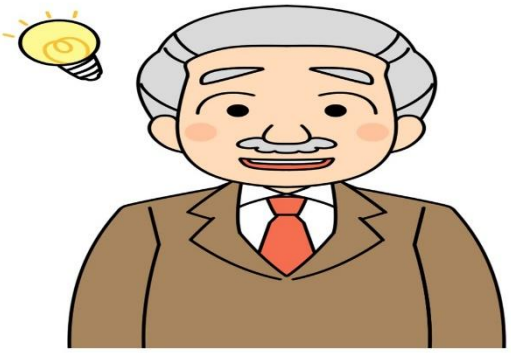
『はあーあ、アタシ、また今日も失敗しちゃった。自分の失敗だけならまだいいけど、先輩にも迷惑かけちゃって、ホント申し訳ない気持ちでいっぱい』

　このように、A子さんはとても落ち込んでしまっていました。
　しかし、A子さんは、根が素直で、明るくまじめな性格のため、まわりの先輩はA子さんを温かく見守っていたのでした。
　そのため、A子さんは、ますます、早く役に立てるようになりたい、早く失敗を挽回したいと、一人で、とても焦っていました。

D社長

　そんなある日のことです。
　こちらは、D社長です。
　D社長は、A子さんの持ち前の明るさと、思い切った行動力に期待しており、A子さんなら必ず大きく成長すると信じていました。
　しかし、ここ最近、A子さんがミスを連発して、落ち込んでしまっている様子を心配していました。

『うーん、A子さん、最近、落ち込んでるなぁ。最近のA子さんのデザインも、前みたいに、思い切ったデザインというより、無難なデザインが多くなってるなぁ。せっかくのA子さんの思い切りの良さを伸ばしてあげられたら、必ずや、最高のデザイナーになれると思うんだけどなぁ。いったいどうしたものか』



『そうだ、よし、私も、現場に復帰して、背中を見せよう。思い切りぶつかって、失敗する姿を目の前で見せてあげよう』

　こうして、突然、Ｄ社長は、デザイナーとして現場に復帰することにしました。
　実は、このＤ社長は、１０年ほど前には、大胆かつユニークなデザインを作り出すことで業界で有名でしたが、今では、管理職として、現場には出ていませんでした。

『Ａ子さん、ちょっといいかな。実はね、わたし、デザイン制作の現場に復帰することにしたんだよ。もう、現場を離れてしまったから、最近の流行とかには追い付いていけないかもしれないけれども、それでも、もう一度、おもいっきりチャレンジしてみようと思うんだ。思い切ってぶつかったら、失敗しても全然ＯＫだと思うんだ。それでね、よかったら、私と一緒にプロジェクトに取り組んでもらえないかな？』

『ええっ！私でよろしいんですか？ぜひとも、お願いします。実は、わたし、昔、社長の制作されたデザインを見て、この業界に入ったんです。一緒にプロジェクトに参加させていただけるなんて、光栄です』

『ありがとう。じゃあさっそく、新規のデザインコンペの話が入ってきたところなんだ。強力なライバル会社もたくさんこのコンペに入っているようだよ。それでね、Ａ案とＢ案、ふたつのデザインのアイデアを作ってみたんだけど、どっちが良いと思うかな。参考までに、Ａ子さんの感想を聞かせてもらえるかな』

『ありがとうございます。拝見します、うーん、そうですね、私には、A案が素直でストレートなデザインで、B案が思い切ったユニークなデザインに感じました』

A案：
　素直・ストレート
B案：
　大胆・ユニーク

『個人的には、思い切った、ユニークなデザインのB案が好きなのですが、ライバル会社に勝たないといけないということを考えると、無難なデザインのA案のほうが良いのではないかと思います』

『なるほど、たしかに、A案とB案を比べると、A案のほうが無難に見えるよね。感想をありがとう。うーん、そうだなぁ。迷うね。よし、決めたよ。今回は、思い切って、B案で行くよ。私としては、おもいっきりやってみた結果だから、これでコンペで負けても悔いはないといえるくらいなんだ』

一か月後

それから、一か月後のことです。

＞

たまたま、Ａ子さんとＤ社長が打合せをしているところに、コンペの結果を伝える電話がかかってきました。

『はい、もしもし、はい、はい、はい、わかりました』

『あの、Ｄ社長、今のお電話、コンペの結果の電話ですよね。どうでしたか？』

『ダメだったー！悔しい！残念。負けてしまった。失敗してしまったようだ。でも、まあ仕方ない。悔いはないといえるくらい、最後までがんばったからな』

『私も残念です。あのデザインならきっと喜んでもらえると思ってましたので』

A案：
　素直・ストレート
B案：
　大胆・ユニーク

　それから、また、しばらくたってからのことです。また、新規のコンペの案件が舞い込んできました。

『A子さん、また新規のデザインコンペの話が入ってきたところなんだ。強力なライバル会社もたくさんこのコンペに入っているようだよ。それでね、また、A案とB案、ふたつのデザインのアイデアを作ってみたんだけど、どっちが良いと思うかな。参考までに、A子さんの感想を聞かせてもらえるかな』

『ありがとうございます。拝見します、うーん、そうですね、私には、A案が素直でストレートなデザインで、B案が思い切ったユニークなデザインに感じました』

『個人的には、やっぱり、思い切った、ユニークなデザインのB案が好きなのですが、今回こそ、ライバル会社に勝ちたいですから、無難なデザインのA案のほうが良いのではないかと思います』

『なるほど、たしかに、A案とB案を比べると、やっぱり、A案のほうが無難に見えるよね。感想をありがとう。うーん、そうだなぁ。迷うね。よし、決めたよ。今回は、思い切って、B案で行くよ。前回は失敗してしまったから、今回は無難にいくという選択肢ももちろん正しいと思うんだけど、最後の最後まで修正を重ねて、絶対悔いがないくらいのクオリティに仕上げて、B案で勝負するよ』

『はい、わかりました。私も全力で、お手伝いさせていただきます』

一か月後

それから、一か月後のことです。

たまたま、Ａ子さんとＤ社長が打合せをしているところに、コンペの結果を伝える電話がかかってきました。

『はい、もしもし、はい、はい、はい、わかりました』

『あの、Ｄ社長、今のお電話、コンペの結果の電話ですよね。どうでしたか？』

『ダメだったー！悔しい！なんでなんだ！！残念。また失敗してしまったようだ』

『ええー！そんな、あのデザインなら絶対勝てると思ったんですけど』

『うん、本当に残念だね。でも、私も、久しぶりに現役のころを思い出して、徹夜するまで仕事に打ち込んで、全力を尽くしたよ。後悔はまったくしていないんだ。全力でぶつかって、それで失敗するのはありだと思うんだ。ここから得られたことはたくさんあると思うんだ。もし、逆に、全力を尽くさないで負けてしまったら、得られるものがなかったと思うんだ』

『なるほど、そうですね。わたし、今回、社長と一緒にお仕事させていただいて、気づいたことがあります。わたし、仕事のミスが連続してしまって、不安になってしまって、だいぶ消極的になってしまっていたんですけど、社長が全力でぶつかっていくところを見せていただいて、わたし、かなり消極的になっていたことに気づきました。
　もっと積極的になりたいと思いました』

『おおー、そうか、そういってもらえると、私も、全力を出し尽くして、思いっきり玉砕した甲斐があったというものだよ。実は、私は、A子さんの良いところは、思い切りの良さだと思っていたんだ。だから、A子さんなら必ず、できると信じているよ。全力で、応援するよ』

『はい、ありがとうございます。
がんばります！！』

＜参考＞

だれしも失敗したくない、失敗をおそれて挑戦しづらいことは誰にでもあるところ、それをどうとらえていくのか、という点について、一つの考え方をマンガ形式でお伝えさせていただきました。

もちろんながら、いろいろな考え方があるところであるため、あくまで、意見交換の際の一つの考え方・題材として、ご活用いただければ幸いです。